

愛するペット やせつなペット

9月20日から26日まででは、動物愛護週間です。動物と人間には長い歴史があり、共に信頼関係を築いてきました。最近「コンパニオン・アニマル」という言葉を聞くようになってきました。動物を愛玩物としてとらえるのではなく、人生の伴侶としてその動物と生活する考え方がです。動物は何かを与えてくれることが多いですが、ペットロス症候群（ペットを失ったことによる精神や身体の疾患）になる人も多く、人間の動物への期待も高くなっています。その反面、動物に対する飼育放棄や虐待が問題になっています。

動物も人間と同じ大切な「いのち」を持っています。動物愛護週間があるこの時期に考えてみましょう。動物を愛することの意味を。

菊池地域合同特集

この特集は菊池市・大津町・菊陽町・合志市の合同特集です。地域的につながるの深い2市2町が同じテーマを一緒に掲載することで問題を共有し、より効果的な啓発の機会となることをねらいとしています。

よしおかきょうみ
吉岡享美さん(菊池市)と
ポメラニアン「麗ちゃん」(8カ月)

それは本当に やさしさですか

菊池保健所インタビュー

飼い主を待つ犬たち

菊池保健所には、年間多くの犬が「飼い主が病気で世話ができない」「引越先で犬が飼えない」「犬アレルギーになった」「手に負えない」などさまざまな理由で連れて来られます。しかし、犬は保健所に居る間もあなたと生きることを望んでいます。飼い主を待っています。「これ以上不幸な犬を生まな

いために犬に不妊・去勢の手術をしてください」と話すのは、同保健所衛生環境課長の桑島文伸さんです。

昨年、菊池保健所に抑留、収容された犬は580匹。このうち飼い主から引き取った犬は136匹です。この580匹の中で、救われた犬はわずか134匹。抑留、収容された犬の約8割以上が処分されているというのが現状なのです。

保健所では、引き取りを希望する飼い主に対して「処分されるのが前提ですよ。欲しい人には譲渡もできませんが、その確率は低いです。それでもいいですか」

真のやさしさとは

「犬を保健所で処分するのはかわいそうだから、逃がしてやることで生きのびて欲しい」。このように考える飼い主もいるだろうと桑島さんは話します。しかし、逃がしても、飼われていた犬が自分でえさをとるのは至難の業です。例えば生き延びたとしても、町をさまよいる子犬を生み、住民からの連絡で結局は保健所へ。これは犬に対するやさしさでもなんでもありません。ただ飼い主という責任から逃れるための言い訳にすぎないのです。

出してみませんか。ここにいたくさんの犬たちは、あなたが迎えに来るのを心待ちにしているはずですよ。

熊本県では、犬に生きる機会を与えるために、動物愛護管理ホームページで迷子犬・譲渡犬の情報や動物を飼うための心得などをお知らせしています。

熊本県動物愛護管理ホームページ
<http://www.kumamoto-doubutuinfo.jp>



(平成20年度 菊池保健所管内の状況)

	登録 総数	狂犬病予 防注射数	捕獲		返還	譲渡	処分
			(成犬&子犬)	(成犬&子犬)			
菊池市	4,442	3,121	189	37	15	※譲渡については市町との集計は行なっておりません。	167
合志市	4,715	2,986	100	45	17		106
大津町	2,466	1,855	88	20	2		84
菊陽町	2,166	1,706	67	34	4		88
その他	-	-	-	-	4		-
計	13,789	9,668	444	136	42	92	445

※抑留、収容の期間によっては、年度をまたぐ場合があるので、数が合わないことがあります。



くわしま ぶみのぶ
桑島 文伸さん
菊池保健所衛生環境課長

「やさしさ」

今から犬を新しい家族として迎えようと考えている人へ。まず保健所で待っている犬を思い

TOPICS

犬魂碑

菊池保健所に来た犬は、約1週間の収容の後、受取人がいない場合は、殺処分されます。処分された犬のために、「犬魂碑」が敷地内に建てられています。

